

「公印省略」

29 農林試第 1695 号
平成 29 年 6 月 22 日

各関係機関団体の長

殿

各病虫害防除員

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成 29 年度病虫害発生予察特殊報第 1 号について

このことについて、本県のイチジクでフタモンマダラメイガの発生を確認しましたので、病虫害発生予察特殊報第 1 号を発表し、送付します。

特殊報第 1 号

1 病虫害名 フタモンマダラメイガ(別名 クロフタモンマダラメイガ)

2 学名 *Euzophera batangensis* Caradja

3 寄生植物 イチジク

4 発生の経過と概要

平成 29 年 4 月 5 日県内のイチジク栽培ほ場で、枝幹を食害する幼虫の発生が確認された。採取した幼虫から羽化した成虫は、門司植物防疫所によりフタモンマダラメイガ(別名: クロフタモンマダラメイガ)と同定された。

5 国内での発生状況

フタモンマダラメイガは、主にカキ、クリ、リンゴの枝幹を加害する害虫であるが、平成 11 年に三重県でナシでの被害が確認され、平成 29 年までにブドウ、モモ、スモモ、ブルーベリー等他の作物でも枝幹での被害が報告されている。なお、リンゴ、ナシでは果実被害も確認されている。

イチジクでの被害はこれまで報告されておらず、本県の事例が初確認である。

6 特徴と生態及び被害

1) 形態

老齢幼虫の体長は 13mm 程度で、頭部は茶褐色、体色は淡褐色である。蛹の体長は 10mm 程度で、光沢のある黄褐色で羽化前に暗褐色になる。成虫は開帳約 15mm で、前翅は黒褐色で灰白色の波状の横帯が 2 本ある(図 1)。

2) 生態

越冬形態は老齢幼虫で、枝幹の粗皮下などで虫体が透けて見える薄い繭を作って越冬する(図 2、図 3)。越冬世代成虫は 4 月～5 月頃から発生する。年 3～4 回発生するが、夏期は羽化時期が交錯して世代の区別が不明瞭となる。幼虫は、剪定時の切り口や癒合部などの樹皮下を食害し多量の虫糞を排出する(図 4)。

3) 被害

被害部は糸で粗く綴られた虫糞が発生しており、虫糞を取り除くと剪定時の切り口や癒合部などの樹皮下に寄生した虫が確認される。

被害の発生は剪定や日焼け等で弱った部位の樹皮下で多く、食害による樹勢の低下は確認されていない。

7 防除対策

- 1) イチジクにおいてフタモンマダラメイガに適用のある農薬はない(平成 29 年 6 月 13 日現在)。
- 2) 虫糞が排出されている部位の粗皮を削り、樹皮下に生息している幼虫及び蛹を捕殺する。
- 3) 本虫は枝の枯れこみ部等の弱った部位に発生しやすいため、冬季や新梢発生時に枯死部位を除去するとともに、枯れ枝を発生しにくくするため、新梢発生後に再度剪定する。樹勢の低下等は確認されていないため、主枝更新で対応できる。



図 1 成虫



図 2 蛹と繭 (矢印部分)



図 3 蛹と繭 (矢印部分)



図 4 排出された虫糞